

# 令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立岡崎小学校
校長氏名	西岡 美也子
作成日	令和 8年 3月 6日

## 1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、自ら課題を求め、よりよく生きようとする子供の育成				
	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○全国学力学習状況調査及び県学習到達度調査において、特に「書く」領域での県平均値以上をめざす。 ○保護者アンケート質問2「子供にわかりやすい授業の工夫をしている」で、90%以上をめざす。	○保護者アンケート質問4「いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」で、保護者80%以上を目指す。 ○各学年、道徳の研究授業を実施し、校内で協議する。	○毎日朝ごはんを食べてくる児童95%以上を目指す。 ○チャレンジランキング等を利用し体力の向上を図る取組を増やしていく。 ○設定を変えて、学期に一度は防災・避難訓練を行う。	○保護者アンケート質問1「教育活動や子どもの様子を分かりやすく知らせている」で、80%以上をめざす。 ○ゲストティーチャー等、多くの方々に学校に来ていただき、地域に開かれた学校をめざす。
重点目標	○思考力・判断力・表現力の育成 ○子どもを主体とした、授業づくり ○知識及び技能の習得 ○基本的な生活習慣の定着 ○読書環境の整備	○道徳教育を柱とした教育活動の充実 ○人権意識を高め、自他共に大切に教育の実践 ○仲間づくりの実践	○基本的な生活習慣の定着 ○体力向上の推進 ○安全教育の推進	○家庭・地域との連携を深める ○地域人材の活用や資源の活用を図る
取組の状況	○全国学調では、国語が全国や県平均を少し下回り、「書く」領域でも同じ傾向だった。しかし、県の学習到達度調査では、昨年より大きく改善が見られた。 ○保護者アンケートで指標の項目で肯定的な回答が80%にとどまった。 ○高学年で教科担任制を取り入れ、学習指導の効率化を図った。 ○一学年一授業を実践し、授業力向上に努めた。	○保護者アンケートで指標の項目で肯定的な回答が66%にとどまった。分からないという回答も23%と高かった。 ○道徳科の授業では、全ての教育活動と関連付けた「フォーカスデザイン」の考えのもと、効果的な授業をめざし、授業形態の工夫を行った。 ○学級を軸に学年内や交流学年を中心に交流し、仲間づくりに取り組んだ。	○毎学期生活リズム調べを行い、基本的な生活習慣の定着を啓発した。 ○休み時間に縄跳びに取り組む等体力向上に努めた。 ○避難訓練は、学期ごとに想定を変えて実施した。また3学期に休憩時の避難訓練も実施した。 ○不審者対応訓練では、警察から講習を受けた。	○保護者アンケートで指標の項目で肯定的な回答は77%にとどまった。 ○学校便り・ホームページを活用し、子どもや学校の様子を伝えるようにした。
取組の成果と課題（評価結果）	○全国学調では、国語が全国や県の平均を少し下回り「書く」領域でも同じ傾向だった。県学習到達度調査においては昨年と比べ大きく改善が見られた。少しずつ「書く」力がついてきているが、根気強く書く活動を取り入れる必要がある。 ○高学年の教科担任制については、教科でも、生活指導でも、学年で協力して指導できるようになってきている。 ○一人一授業を行い授業力向上に努め、成果が出てきている。来年度もより一層授業力向上に努めたい。	○道徳科の授業における今年度の研究の方向性（フォーカスデザイン）や活動内容等について、共通理解を図り取り組むことができた。 ○保護者アンケートの質問4「いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」で、肯定的な回答が66%であった。わからないとの回答も23%と高い割合であるため、電話や学級便り等、きめの細かい働きかけを引き続き続けて行きたい。	○毎日朝食を食べてきている児童がほとんどの学年で95%以上であった。達成できなかった学年もあり、来年度も啓発する必要がある。 ・生活リズム調べの結果から、ゲームYoutube等の動画視聴に費やす時間が増えている傾向があり、家庭でも苦慮している様子が伺える。 ○休憩時間には、元気に外遊びをしている児童が多い。 ・縄跳び大会など、機会をとらえて児童の体力づくりに努めた。	○保護者アンケートでの回答が指標を下回る結果となった。保護者に学校の取り組みを理解してもらうため、周知の仕方の検討が必要である。 ○岡崎地区の地域の良さを発信してくれるゲストティーチャーの発掘が必要である。
改善方法	○若手教員の教師力向上を図るための授業研究や学級経営について学ぶ機会を設けるなど、学校全体で取り組みをさらに進める。 ○朝の読書タイムを継続しつつ、引き続き、文字に親しむ児童を増やせるよう、活動の充実を図る。 ○授業に振り返りなど、「書く」活動を有効に取り入れる。	○道徳科の学習を柱とし、全教育活動で学んだことを実生活に活かせる児童の育成に取り組んでいく。 ○学校アンケート結果をもとに、本校における児童の課題を再確認し、次年度の重点目標設定に活かしていく。	○生活リズム調べは、生活を見直すきっかけになると保護者からの声も多いため、引き続き実施し、課題のある項目については、保護者に働きかけていく。 ○体育学習を充実させるため、年間計画をしっかりと立案し、全教員で共通理解する。 ○スマホの有益性を学習するとともにSNS等の危険性を啓発する。	・地域・保護者・学校が互いに理解を深め、連携できるよう、情報発信や交流のあり方の工夫を行い、地域とともにある学校をめざす。

## 3

<p>・全体的には、児童は落ち着いて学校生活を送ることができている。また、児童会の挨拶運動や、校内清掃等、子どもたちが自主的に活動できる様子も見られてきている。しかし、不登校や家庭環境において気になる児童もいるため、子ども家庭センター等、関係機関と連携しながら、丁寧に対応していきたい。</p> <p>・ICT機器の整備が急速に進み、オンライン等を活用した学びの拡がりや可能性が見られたため、今後ICTを取り入れた更なる研究が必要である。</p> <p>・校区内での宅地造成が進んでおり今後児童数増加が予想されるため、和歌山市教育委員会と連携し児童数の増加には注視していく必要がある。</p>
--